

# SAIDAI CONCIERGE

サイダイコンシェルジュ

## 01 巻頭特集

# 世界で学ぶ! 埼玉大学の留学制度

## 05 ラボ探訪 — Welcome to my laboratory —

- 教養学部 哲学歴史専修課程 / 一ノ瀬研究室
- 経済学部 メジャー：経営イノベーション / 宇田川研究室
- 教育学部 芸術講座 / 高須賀研究室
- 理学部 数学科 / ニール研究室
- 工学部 環境社会デザイン学科 / 久保田・小嶋・加藤研究室 (交通・計画グループ)

## 10 “課題解決型” インターンシップ&プログラム参加のススメ

チームで企業の課題を解決せよ!

## 11 グローバルに活躍する人材へ

留学生のサポートを通じて経験できた真の異文化交流

## 12 サークル紹介

音楽研究会のび 民謡御囃子班

## 13 活躍する卒業生からのメッセージ

漫画家 山本アリフレッドさん

## 14 学長のページ

緑豊かな埼玉大学キャンパス—創立70年の歴史—

埼玉大学マスコットキャラクター「メリンちゃん」  
(国際交流会館の新生交流イベントにて)

井原 基 国際企画室長に  
お聞きしました

# 埼玉大学の 留学制度について 教えてください。



埼玉大学では、首都圏に立地する大学として、リージョナル（地域的）とグローバル（世界的）な視座の両方を持つ学生の育成を目指しています。今回はグローバルな視座を養う留学制度について、国際企画室長を務める井原 基教授にお話を伺いました。

## 多様な留学制度で 留学生のニーズをフォロー

——現在、埼玉大学ではグローバルに活躍できる人材を育成するために、留学制度を充実させています。まずは埼玉大学の留学制度について教えてください。教えてください。

**井原国際企画室長（以下、敬称略）** 最も一般的な留学制度が、海外の大学との間で締結した交流協定に基づき、留学生を相互に派遣する交換留学制度です。現在、学生交流も含む交流協定を結んでいる協定校は米国をはじめ、欧州、アジア、中南米、オセアニアなど世界各国に129校（部局間交流協定含む）あります。その他、協定校への留学と、発展途上国の開発関係機関におけるインターンシップに参加する「グローバ

ル・ユース（GY）」という特別教育プログラムも用意。貧困問題という世界規模の課題に対する見識を深め、その解決に貢献できる人材育成を狙ったものです。

——学部独自の留学制度もあるということですが？

**井原** 教養学部と経済学部では「ダブル・ディグリー・プログラム」というプログラムを実施しています。これは埼玉大学で2年間、留学先の大学で2年間学ぶと両方の学位が取得できるもので、経済学部は仏国の「パリ第7大学」、教養学部では米国の「アーカンソー州立大学ジョーンズボロ校」の学位取得が可能です。なお、大学院理工学研究科でも「台湾交通大学理学院」と「アルファラビ カザフ国立大学」の2校とダブル・ディグリー・プログラム協定を締

結しています。さらに経済学部には、「グローバル・タレント・プログラム（GTP）」というプログラムがあります。このプログラムはより高度なグローバルスキルを身に付けることを目的としており、英語で行われる専門分野の講義が必修になっている他、半年または1年間の留学への参加や英語での卒業論文の提出が求められます。なお、このプログラムの選考は一般入試とは別枠で行われます。

## 安心して留学に臨める 万全なサポート体制を構築

——ご説明いただいたような留学制度を使って、埼玉大学在学中に留学をするメリットについてお聞かせください。

**井原** まず言えるのが、留学先の授業

料等が免除されるということ。つまり授業料等が高額な欧米の大学でも、留学時の授業料等は、本学の授業料だけを負担すればよいのです。また交流協定校が数多いのでスキルや目的に合わせて留学先を選べることも特徴の1つです。例えば留学先として人気の米国の大学は、要求される語学力の水準が非常に高い傾向があります。その点、欧州やアジアの大学は、その水準が比較的低い。このように、自分自身の英語力のレベルや留学目的に合わせて留学先を選択することが可能です。

——留学する学生に対する支援制度についてもご説明いただけますでしょうか？

**井原** 留学をしようとする学生に対しては、留学に関する説明会を定期的で開催している他、国際室では、留学に関する質問や相談に随時応じています。留学が決まってからも、各学部と連携して学生たちの不安や悩みについて細やかなサポートやケアを行う体制を整備し、危機管理マニュアルを作成するなど、学生が安心して留学に臨めるように様々な対策を講じているのです。なお、国際室では「JASSO(日本学生支援機構)」や文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」、埼玉県の「埼玉発世界行き」といった奨学金支給制度を利用するための支援も行っています。

——現在どのくらいの学生が留学をしているのでしょうか？

**井原** 留学をする学生の数は、年々増加傾向にあることは間違いありません。昨年度、留学(短期研修を含む)をした学生は、239人ですが、2021年度までにその数を300人にすることを目標に掲げています。

——海外への留学生が増える一方で、海外からの留学生も積極的に受け入れているようですね。

**井原** 現在、本学では交流協定校からの交換留学生を始めとして、正規・非

正規の留学生を積極的に受け入れることで、日本人学生と外国人留学生が同じキャンパスで学び、日本にいなから活発な異文化コミュニケーションが図れる環境を構築する「多文化キャンパス創造プロジェクト」を推進しています。その結果、2017年度は622人(大学院生も含む)もの外国人留学生を受け入れました。なお、半年または1年間という期間で協定校から受け入れる「STEPS (Short-term Exchange Program of Saitama University) プログラム」や毎年6月から約1ヶ月間の留学を経験する「サマープログラム」という制度を利用する外国人留学生が多いですね。

### 学生を見違えさせる留学先での気付きとは？

——学生にとって留学するメリットとはどのようなことでしょうか？

**井原** それまで過ごしてきた学校や地域という狭い世界とは全く異なる環境で活動することで、視野が広がることだと思います。また、自分に足りないものに気付き、その課題に対して、何かしらの対策をするという経験が、勉強に対する姿勢を変えることにつながります。例えば、留学先では最初に外国語の講義を受け、内容を理解する難しさに直面する学生が非常に多いですが、皆そのような状況を何とか変えようと講義前に入念な準備をしたりする訳です。実際に、私のゼミの学生も、留学後は別人ようになって帰ってきます。留学経験が学生を大きく成長させるのは間違いありません。

——最後に埼玉大学入学を目指す受験



井原 基(いはら もと) / 1994年東京大学経済学部卒業、2000年東京大学経済学研究科博士課程修了。埼玉大学講師・准教授を経て、2015年より埼玉大学人文社会科学部研究科教授(国際比較経営論担当)、2018年より国際企画室長を務める。タイ王国チュラロンコーン大学客員研究員、ハーバード大学客員研究員、法政大学非常勤講師(国際経営論担当)を歴任

生にメッセージをお願いします。

**井原** 大学生になったらぜひ留学することをおすすめします。埼玉大学の留学制度では、多様な留学先がありますので、能力や目的に合わせ、柔軟に留学先が選べます。それ故、たとえ自分に自信がなくて「留学したいけど、自分には無理だ」と考えていたとしてもあきらめる必要はありません。入学して、留学に興味を持ったなら、まずは国際室や学部の窓口で気軽に相談してみてください。また将来の進路は皆さん様々だと思いますが、グローバル化が進む世の中ですので、今後はどのような業界でも留学経験を生かせるシーンがあるでしょう。グローバルに活躍するための経験やスキルは、単に外国に行ったことがあるとか、語学ができるということではありません。それに加えグローバルに通用する専門性が必要です。本学の留学制度でぜひそのような素地を身に付けて、将来活躍してほしいですね。

埼玉大学と交流協定を結んでいる大学は  
<http://www.saitama-u.ac.jp/international/oversea/list/>  
 でご確認ください。

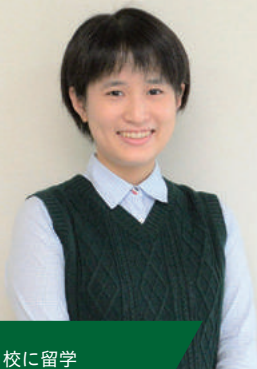


# 留学経験者が語ります！ 留学で気付いたこと & 成長できたこと

## 世界各国にある交流協定校で学ぶ 海外協定校への派遣留学

Exchange Program

大学院理工学研究科生命科学系専攻  
分子生物学コース  
2年生  
藤井美翔さん  
専修大学松戸高等学校出身



2017年8月から9か月間  
アーカンソー州立大学ジョーンズボロ校に留学

### 専門分野を英語で学ぶことで 得られるもの

現在、大学院で生物を分子レベルで解析するという研究を行っていますが、留学しようと考えたのは、研究を進めるためには英語で書かれた論文を読む必要があると気付いたことがそもそものきっかけでした。そして、生物学を英語で学ぶことで、研究で使える英語力を身に付けたいと考え、英語圏の大学で生物学が学べる大学への留学を決めたのです。

当初の目的通り、留学先では生物学の講義中心に履修しましたが、初めの2、3か月は、先生が何を話しているのか分からず苦労しました。それでも毎日、録音した講義の音声をつまみかきして聞き返すことをしていたら、徐々に内容が理解できるようになり、留学を終える頃には、生物を研究するための英語力はある程度身についたと思います。他分野だと心が折れたかもしれませんが、やはり好きな分野だったので続けることができたのでしょう。留学した経験を振り返って思うのは、環境を変えることで、いつもと違う視点で自分を見つめ直すいい機会になったということです。自分の英語力の低さと自分の好きな分野で研究していることの素晴らしさに気付けたことで、やるべきことが明確になったのは大きな収穫だと考えています。



留学中に現地の人の家で行ったハロウィンパーティの様子

## 埼玉大学と協定校両方の学位が取得できる ダブル・ディグリー・プログラム

Double Degree Program

経済学部  
経済学科  
3年生  
狩野志文さん  
群馬県立高崎高等学校出身



2017年9月からパリ第7大学に留学中

### 留学で視野が広がり 世界が変わりました

専門が開発経済学でアフリカの仏語圏に興味があったため「仏語を習得すること」とアフリカの開発援助に大きな影響力を持つ「国際連合や欧州連合(EU)について現地学ぶこと」を目的に「パリ第7大学」へのダブル・ディグリー・プログラムへの参加を決めました。

また、日本語はもちろん、英語も通じないという厳しい環境に身を置くことで自分を大きく成長させたいという気持ちもあったと思います。このプログラムでは、2年生の後期から4年生の前期までをパリで過ごしますが、現在大学では経済学の専門科目の他、語学や教養科目を履修しています。こちらの講義では、日本とは異なり、学生が積極的に発言し、よく議論します。様々な人の意見が交わされることで新しいアイデアや考え方が生まれるプロセスを目の当たりにして、人と話すことの大切さを知らされています。また、以前は趣味が似ている人とばかり付き合いがちでしたが、そうでない人と話すことで視野が広がることにも気付かされました。

将来は、国際連合のような機関で発展途上国の開発に携わる仕事がしたいと考えています。その実現のために専門的な分野で自分だけの強みを作ることが現在の課題です。



「パリ第7大学」で一緒に学ぶ学友達と狩野さん

井原国際企画室長のインタビューでは、埼玉大学が、様々な留学制度でグローバルに活躍したい学生の後押しをしていることがお分かりいただけたと思います。では、実際に留学をした学生たちは、どのようなことを学び、どのようなことを得られたと考えているのでしょうか？ 留学経験者、あるいは留学中の学生に語ってもらいました。

留学で学べることは  
たくさんあるんだね



## 学生が設計した留学プランに返金不要の奨学金を支給 トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム

Tobitate! (Leap for Tomorrow) Study Abroad Initiative



経済学部  
経済学科  
4年生

本間菜摘さん  
新潟県立村上中等教育学校出身

2016年4月から1年間ブータン王国に留学

## 留学は目的ではなく、 やりたいことを実現する方法

「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の奨学金を利用して、ブータン王国の農村の貧困問題の解消などに取り組むタラヤナ財団で1年間、インターンシップを経験してきました。異文化に対する興味と貧困地域の現状をこの目で確かめたいという気持ちがあり、このプランを立案しましたが、留学先にブータン王国を選んだのは「心の幸福」と「経済成長」を両立させようという国づくりに高校時代から興味があったからです。

現地では、財団本部から農村に派遣される駐在員の活動を報告書にまとめる業務に従事。駐在員とともに各地の農村に2週間～1月間滞在し、その活動を記録するのです。

貧困地帯の状況については、本や資料を読んで理解しているつもりでしたが、やはり実際に目の当たりにするとショックでした。2、3日水が出ないのは当たり前ですし、その他にも理不尽なことが多々起こる——。そのような中で自分も村の人たちと一緒に生活することで厳しい現実を実感しました。この経験を振り返ると、これまで知らなかった世界を知り、視野が広がったことで、引き出しが増えた気がします。何か課題に直面した際にも、焦らず冷静に対応できるようになりましたね。



滞在した村の住民と。村では一緒に農作業などをして過ごしたという

## 半年または1年の留学生受入制度(STEPS) 埼玉大学短期留学プログラム

Short-term Exchange Program of Saitama University



国際本部 STEPS 生  
トリノ大学人文学部  
アジア言語・文化学科日本語専攻  
3年生

レマリアさん  
V.アルフィエーリ文系高等学校出身

2018年4月から埼玉大学に留学中

## 大好きな日本文化を 埼玉で学ぶ

高校時代に日本のアニメや漫画が好きになったのがきっかけで、日本文化に興味を持ち、大学でも日本語を学んでいます。留学しようと思ったのは、やはり日本語を学ぶためには、日本で生の言葉に触れる必要があると感じたからです。こちらの生活は、大学での講義以外にも、日本文化に触れる機会が多く、本当に楽しく充実しています。こちらでアニメや漫画だけでなく、日本文学や寺院などの文化財にも触れ、その素晴らしさに気付くことができました。埼玉大学でのカリキュラムは、日本語の講義が中心ですが、日本の歴史や美術をテーマにした講義も履修しています。

またソフトボールサークルにも参加していますが、サークルの仲間との交流は、楽しいだけでなく、日本語の勉強にもなる良い機会です。また異文化の中で過ごす毎日、確実に自分を成長させてくれています。

将来の目標は日本で働くこと。そのためにネイティブスピーカー並みの会話ができるようになりたいです。留学期間はあと半年残っていますので、この機会に日本語のスキルをできるだけ向上させたいですね。先生方が皆優しく、環境も良い埼玉大学で学べることは本当に幸せだと感じています。



埼玉大学の日本語クラスのクラスメイトと



## 教養学部 哲学歴史専修課程／一ノ瀬研究室

# 歴史に埋もれた人々に光を当て、 現在の日本を深く知る——

### 戦争の結果の上に成り立つ 現代の日本社会

専門は日本の近現代史で、現在はその中でも軍事史を中心に研究しています。

この研究の大きな意義は2つ挙げられます。1つは、平和を実現するために、過去に学び教訓とすべく「なぜ戦争が起こるのか知る」こと。もう1つは「日本という国の現状をより深く理解すること」です。

終戦から70年以上経っていますが、現代の日本には、第2次世界大戦の影響が色濃く残っています。例えば、憲法の内容もそうですし、国際的には中国や韓国との関係や北方領土の問題も然り——。

戦争を知り、考えることは、現在の日本がなぜこのような国になり、このような立場に置かれているのかを知

ることにつながるのです。

また戦争というのは究極の非常事態。その中で人々が何を感じて、どう動いていくのかを知ることで、災害に対する備えなど、得られる教訓は、とても多いと思います。

### 真実を見極めるために 終戦時の日本人を改めて考察

現在取り組んでいるテーマは、「終戦時に日本人は何を思ったのか?」ということ。

ドラマなどでは「戦争に負けて、悔しいけれど、泣いてすっきりして復興に向けて立ち上がった」という日本人の姿が描かれることが多いですが、実際のところは、その時に思ったこともその後の行動も人それぞれでした。これまで語られることのなかった人たちに光を当てることで、「日本人にとっ

て戦争とは何だったか?」ということを改めて考察していくのです。

さらにこの研究は、高度経済成長の真の要因を知ることにも役に立つでしょう。その要因はよく言われるような敗戦に対する日本人の反骨精神だけに限らないのです。

もちろん、娯楽としてのドラマや小説で、そのようなストーリーが語られることを否定はしません。ただ歴史学の研究では、光の当たらない部分をあぶり出し、真実を明らかにすることが求められるのです。

### Profile

一ノ瀬 俊也 [いちのせ としや]  
教養学部 教授

- 1994年 九州大学文学部史学科卒業
- 1998年 九州大学比較社会文化研究科博士課程中退
- 1998年 国立歴史民俗博物館助手
- 2007年 国立歴史民俗博物館助教
- 2007年 埼玉大学教養学部准教授
- 2016年より現職

### message

一ノ瀬  
教授より  
受験生へ



### 暗記は大学で好きなことを学ぶ準備

高校までの歴史という教科は、暗記が中心なので、苦手意識を持つ人が少なくないかもしれません。しかし、暗記は歴史を研究するための基礎知識を得る作業で、大学の歴史学では、暗記からは解放され、自分が興味のあることを深く調べていきます。例えば、現在、歴史をモチーフにしたゲームやアニメが人気ですが、そのようなものに対する興味をきっかけに研究をしても構いません。その結果、「自分の興味に基づいて考察や調査を行い、何らかの結論を導き出す」というスキルを身に付けて欲しいと思います。

### 複雑なことを分かりやすく説明する力を養う

ゼミに参加する学生には「他人の複雑な話を理解し、それを自分の考えと併せて人に説明できる」ようになって欲しいですね。将来仕事を行う上では必要不可欠なスキルですが、これが意外と難しいものです。そのような素養を育むために、ゼミでは、史料を読み、当時の人の考えを把握し、その内容と自分の意見を発表することを実践します。また過去の人々は、我々とは考え方や文化が根本的に異なります。つまり歴史を研究することは異文化の人々を理解すること。そんな経験もグローバル社会の中で生かせると思います。



## 経済学部 メジャー:経営イノベーション/宇田川研究室

# 企業を衰退させるイノベーションの欠如を組織変革により、解消する

### イノベーションが企業にとって必要な理由

企業の持続的な成長にはイノベーションが必要です。

イノベーションとは、技術革新や新たな価値の提供などを指しますが、なぜ必要なかという、どのような製品やサービスも時が経てば必ず衰退するからです。しかし、80年代以降、日本企業はほとんどイノベーションを起こせていないのが現状です。

私が現在取り組んでいる研究テーマは「イノベーションを生み出す組織はどうやって作れるか?」ということですが、日本企業がイノベーションを起こせない要因には組織的な問題があると考えています。イノベーションを推進する取り組みは、成功する保証がないため、企業活動にとっては合理的な理由がありません。それ故、社内

イノベーションにつながるアイデアがあっても淘汰されてしまいがち。そこで企業内にはイノベーションの芽を守る仕組みが必要なのですが、日本企業にはそれがありません。また、イノベーションに必要不可欠な「やりたい」という気持ちの源泉となる「働くことへの意欲」を持つ人が少ないのもイノベーションが起こりにくい理由ですが、これも日本企業独特の旧態依然とした組織に起因するのです。

### イノベーションが生まれるのは“対話”のある組織!?

これらの課題の解決に、有効だと考えているのが、“対話”によって組織の課題を解決する“ナラティブ・アプローチ”という方法論です。ただし、ここでいう“対話”は単に話し合うということではなく、相手のことをよく知り、

自らの視点を改めながら相手との関係を作っていくということで、それができれば、たとえ反対があっても互いの視点の接点を見つけて取り組みを進めることが可能になります。また“対話”によって社内のコミュニケーションが変われば、仕事に対する社員のやりがいも向上していくのです。研究の目標は、この方法論を用いて、効果的な実践を生み出すこと。そのために企業でワークショップを実施し、効果検証するなどの取り組みを行っています。

**Profile**  
**宇田川 元一** [うだがわ もとかず]  
 経済学部准教授

- 2000年 立教大学経済学部卒業
- 2002年 立教大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 2006年 明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得
- 2006年 早稲田大学アジア太平洋研究センター助手
- 2007年 長崎大学経済学部講師
- 2008年 長崎大学経済学部准教授
- 2010年 西南学院大学商学部准教授
- 2016年より現職

### message

宇田川 准教授より 受験生へ



#### 自分が面白いと思ったことを守り続ける

ビル・ゲイツのようなイノベーションを起こした起業家たちは、自分が面白いと思ったものを守り切って、それを形にした人たち。ですので学生には自分が面白いと思うことや心に引っかかったことを見逃さず、守り続ける力を身につけて欲しいです。また「経営戦略」ということであらうと戦略の本質は「孫子」にあるように「戦わずして勝つこと」。たとえ社会的、個人的に何か困難があっても、その中だからこそ、我々が知恵をフル活用してそれにどう挑み、目的を達成するのかが問われているのだと思います。そういうことを学んで欲しいですね。

#### 自分を高められる環境が整う学びの場

学びに対してきちんとした意識を持つ学生が集まっていることが、埼玉大学で学ぶ魅力の1つだと思います。そんな優秀な人たちが集まるグループやネットワークに属することは必ず人生にプラスになります。ぜひ、このような環境で学び、自分を高めて、企業に使われる“人材”ではなく、自分が周りの人を生かせるような人になってください。研究者として感じる埼玉大学の魅力は、学問の場としてリベラルな文化が醸成されている点ですね。上下関係なく、若い研究者でも遠慮せず、自由に研究ができるのは素晴らしいことだと思います。



## 教育学部 芸術講座 / 高須賀研究室



a:埼玉大学モニュメント「地ノゾミ知ヲマトウ」(高須賀教授制作) b:埼玉大学シンボルマーク(高須賀教授デザイン) c:病院壁画(学生デザイン・制作) d:サイタマクラシ(産官学事業)※d~f:学生デザイン e:埼玉大学マスコットキャラクター「メリンちゃん」 f:埼玉サッカー100周年シンボル g:EVカー(産官学事業、デザイン)

# 学校教育における美術の意義について 作品制作を行いながら理解を深める



### 生きるために必要不可欠な 創造性を育てるために

芸術の専門家に限らず、私たちがより良く生きていくためには、世の中に溢れるデザインを正当に評価する能力が求められます。また、何か事を成し遂げようとする際には、物事を生み出す力——創造性が欠かせません。学校教育において「美術」という科目を学ぶ意義は、子どもたちがそのような素養を培うことに他ならないのです。

教育学部の芸術講座の目的は、美術教師を養成することですが、子どもたちに創造性をいかに身につけさせるかを学ぶ必要があります。その前提には教師自らがその力を持たなければなりません。そこで、私のゼミに所属する学生は、「美術」の意義を改めて考えるとともに、自身の創造性を磨くために、各々が感性をはたらかせてデザインや

アートの制作活動を行います。

### 芸術家としての仕事と 教員養成という仕事

私の専門分野は「環境芸術」で、主に公共空間における美術やデザインのはたらきについての研究、作品制作を行っています。この分野は、比較的新しく生まれた概念で、ファインアートや建築、デザインなど、用いられる表現やジャンルの幅が広いことも特徴です。これまで私が制作した作品だけでも、公園の遊具や街中のモニュメント、レリーフなど、作品のモチーフやテーマは多岐に渡ります。

環境芸術家としての活動は、教員養成という仕事とかけ離れていると思われるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。「環境芸術」は、環境や場所、そしてそ

こにいる人のことを考えながら作品を制作していきます。つまり作家には「その環境から何を感じ取れるか？」という感性が問われるのです。一方、教員という仕事は、子どもたちの反応や考えを捉える鋭敏な感性が求められます。それ故、芸術家としての経験の中から、教師を目指す学生に伝えるべきことがあると考えているのです。



◀「SHINJIN もりのかみさま」2018年赤坂9丁目公園。高須賀教授の作品の1つ

### Profile

高須賀 昌志 [たかすか まさし]  
教育学部教授

- 1990年 東京藝術大学美術学部卒業
- 1992年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了
- 1999年 埼玉大学教育学部助教授
- 2007年 埼玉大学教育学部准教授
- 2011年より現職
- 2014年より環境芸術学会会長

### message

高須賀  
教授より  
受験生へ



### 人間には個性があることを身をもって知る

大学で美術を学ぶ意義の1つに、人間の多様性を理解できることが挙げられます。同じ世代の学生が同じテーマを与えられて制作した作品が、こうも違うんだということを実感できるのです。このような経験を通じて身につく「物事を多面的にみるスキル」は、教職に就いた時に必ず役に立つでしょう。子どもが30人いれば、30通りの答えがあるということを念頭に指導にあたる教員になってもらいたいと思っています。また、これから私のゼミで学ぼうという人は、「自ら楽しいことをやりたい」という主体的な気持ちを持って研究に臨んで欲しいですね。

### 創作にも勉強にも適した環境が魅力

埼玉大学の魅力は、あくせくせず、どことなくのんびりした雰囲気にも包まれていること。それでいて、東京との距離も程よく、世の中の流行や風から隔絶されている訳ではないのも良いところです。学生時代を有意義に過ごす場所としては非常に恵まれた環境だと思います。大学構内は落ち着いていて緑も多いですし、創作を行うにも、勉強をするにもうってつけです。私の創作活動にも少なからず良い影響を与えてくれています。また、これは教育学部ならではの、芸術だけでなく、様々な教科の先生方や仲間と交流できるのも大きな魅力です。





## 理学部 数学科 / ニール研究室

# 現代数学で最もアクティブな調和解析—— その最重要問題を解き明かすために

### 多分野で応用される

#### 数学界で最も活発な研究分野とは？

私の専門は数学の「解析学」ですが、現在研究を行う「調和解析」は、その中でも数多くの数学者が取り組むテーマの1つで、純粋数学や応用数学の中でも非常にアクティブな研究分野だといえます。これは1811年にジョゼフ・フーリエというフランスの物理学者が、固体内の熱伝導を理解するために提唱した法則から派生した研究です。

さて、「調和解析」に関する研究テーマに「スタインの制限問題」と「掛谷問題」というものがあります。前者は、1960年代にプリンストン大学のエリアス・スタイン教授が定式化した予想で現代における「調和解析」の最も重要な未解決問題で、後者は1910年代に日本の数学者である掛谷宗一博士が提示したものの。この2つの問題の間に

は深い関係性がありますが、現在、私はこれらの問題に基づくテーマを重点的に研究しています。

「調和解析」は一般の人にはあまり馴染みがない分野かもしれませんが、その理論がJPEGやMP3などの圧縮技術のアルゴリズムに利用されたりと、意外と生活に身近なところで応用されています。また純粋数学には「解析学」「幾何学」「代数学」という分野がありますが、「解析学」の理論は他の2つに比べると具体的な計算に重きが置かれています。具体的な内容で、世の中と関わりを持ちながら研究できることが、この分野の魅力ですね。

### 高いほど喜びも大きい？

#### 登山と数学の共通点

父も数学者だったので、小さな頃から数学に慣れ親しんできましたが、数

学の研究は高い山を登ることに似ていると思います。

麓から頂上が見えない前人未踏の高い山を登る際には、色々なルートを試す必要があるでしょう。数学の難解な定理を証明するのもこれと同様で、初めは何も分からないので、色々なアイデアでアプローチするのです。それを結果に結びつけるためには、大変な作業と時間がかかりますが、だからこそ証明できた時の喜びはとても大きいものになります。この喜びを味わうことが数学研究の醍醐味なのです。

### Profile

Neal Bez [ニール・ベズ]

理学部准教授

2003年 オックスフォード大学卒業  
2007年 エジンバラ大学大学院数学科博士課程修了  
2007年 バーミンガム大学主任研究員  
2009年 グラスゴー大学講師  
2010年 バーミンガム大学講師  
2014年より現職

### message

ニール  
准教授より  
受験生へ



#### 楽しみながら野心的に研究に取り組む

研究室の学生には、野心と自主性を持って研究に取り組んで欲しいと思います。そのような姿勢は、将来、数学者として活動するにしても、社会に出て働くにしても、必要なことだと思います。学生だからといって遠慮することなく、高い目標を持って研究に邁進してください。

また、研究で成果を出すために最も大切なことは数学を楽しむこと。楽しければ、自ずと勉強もするでしょうから、結果も出やすいのです。今後、大学で数学を学ぶ学生たちには、数学を楽しむ気持ちを忘れないで欲しいですね。

#### 世界基準に劣らない質の高い研究環境

埼玉大学の数学科は非常にバランスのよい優れた学科だと思います。学内はフレンドリーな雰囲気と溢れ、仕事しやすいです。また数学という枠組みの中だけでも、幅広い分野の研究が行われていて、それぞれ先進的かつ質が高い印象があります。

このような環境は、学生たちにとっても、私のような研究者にとっても、理想的であることは言うまでもないでしょう。答えが用意されている問題を解く高校までの数学と異なり、答えを自分で探すのが大学での数学。埼玉大学理学部数学科でそんな数学の醍醐味をぜひ味わってください。



工学部 環境社会デザイン学科 / 久保田・小嶋・加藤研究室 (交通・計画グループ)

# 道路の課題解決を通じて 誰もが安全に過ごせる街づくりを実現

## 通学路の安全を 確保するためにできること

工学部環境社会デザイン学科の交通・計画グループでは、都市交通を軸に、地域や都市の安全の確保や賑わいの創出などを目的とした幅広い研究を行っています。その中で私が専門にしているのは住宅街の生活道路の交通安全に関する分野。例えば、通学路の安全を確保するため、通学の時間帯に自動車の侵入を禁止する交通規制が行われるケースがありますが、規制していても通学路に自動車が入ってしまうことがしばしば起こります。このような課題に対して、我々のグループを束ねる久保田 尚教授はライジングボラード(車の侵入を阻むポールが必要に応じて道路上に出てくるもの)という装置を開発していますが、地域の課題を解消すべく、このような構造物の開発や実証

実験などを行うのが我々の具体的な研究内容になります。

また、ライジングボラードの他にも、周辺の振動、騒音を抑えたハンプ(道路の一部を隆起させることで、通行する自動車に振動を与え、速度を抑える構造物)などの研究を行ってきました。

## 効果を最大化するためには 設置前の実験が必要不可欠

このような装置がいかに優れたものであっても、闇雲に設置すればよいというものではありません。十分な効果を得るためには、どこに、どう設置するのが重要です。例えば、ハンプの場合、どのくらいの間隔で設置すれば、通行する自動車のスピードを効果的に抑制できるのかを、実験や調査を繰り返して、明らかにしていきます。また、このような取り組みはある人にメリッ

トがあっても、別の人にはデメリットが生じるということがあります。事前に実験を行うことは、そのような人たちの不安を解消し、納得してもらうための重要な合意形成プロセスの1つでもあるのです。



▲久保田教授が開発したハンプ。旧型のかまぼこ型のものに比べると乗り上げ時の騒音、振動が大幅に低減される

## Profile

小嶋 文 [こじま あや]  
工学部准教授

- 2006年 埼玉大学工学部建設工学科卒業
- 2010年 埼玉大学理工学研究科理工学専攻環境科学・社会基盤部門後期博士課程修了
- 2010年 埼玉大学理工学研究科非常勤講師
- 2012年 埼玉大学理工学研究科助教
- 2016年より現職

## message

小嶋  
准教授より  
受験生へ



## 人の役に立ちたいという思いを大切に

この研究では、地域の人たちから話を聞き、外からは気づくことができない地域の課題を明らかにしていく作業が非常に重要です。そのためコミュニケーション力が必要不可欠な分野だと考えています。大変なことも多いですが、取り組みを行った地域の人たちからの「本当によかった。助かった」という声を聞くと本当にやりがいを感じます。

そもそも「工学」という学問の目的は、人の役に立つものを作ることですので、ゼミの学生には、地域の方々の声を聞き、その声に役に立ちたいという思いを持って、頑張ってください。

## 学部の枠を感じない理想的な研究環境

都市計画や道路工学という研究分野は、理系の知識やスキルだけでなく、社会学や経済学などの知識やスキルも求められます。逆に言えば、文系理系にかかわらず、何かしら活かせることがある分野なので、興味があれば、ぜひ物怖じすることなく、飛び込んできてもらいたいと思います。また私は大学生の頃から埼玉大学に在籍していますが、全学部が同じ場所にまとまっており、学部の枠にとらわれない研究がしやすいのは、この大学の大きな魅力。私自身、工学部にいながら、住民調査方法について、経済学部の教授に師事して学んだ経験もあります。

# チームで企業の課題を解決せよ！

自主的な学びを意味する「アクティブ・ラーニング」。これを実現する学習方法の1つとして注目されるのが「問題解決型学習」です。埼玉大学では「課題解決型科目」として実施していますが、今回はその目的やメリットについて、基盤教育研究センターの石阪督規教授に語っていただきました。



基盤教育研究センター  
石阪督規教授

## 興味や都合に合わせて選択できる幅広いラインアップ

「課題解決型科目」では、学生たちは地域や企業の課題に対して、具体的な解決策を提示していきますが、そのプロセスを通じて、「問題解決へのアプローチ方法を身につける」ことが期待できます。このようなスキルは、目標を達成するには必要不可欠。つまりこの科目は社会で生きていくためのキャリア教育の一環だといえるでしょう。「課題解決型科目」には、学生が県内企業で仕事をしながらその企業が抱える経営課題を解決する「課題解決型長期インターンシップ」と、学生自らが地域の課題を発見し、解決策を考察していく「課題解決型プログラム」があります。さらに埼玉大学の学生は、埼玉県が実施する「埼玉県課題解決型インターンシップ」にも参加可能。これは課題を抱える県内企業、数十社の中からインターンシップ先を選択でき、本校が事業委託を受けているものです。

昨年の「課題型インターンシップ」は、JR東日本大宮支社と実施しましたが、JR東日本側から提示された課題は、「埼京線沿線エリアの活性化策につい



今年3月に開催された「埼玉県課題解決型インターンシップ」の発表会の様子

て具体案を提示せよ」というものでした。この課題に対し、学生たちはグループワークを行い、グループごとに解決策を発表。高架下に植物工場を設置し、そこで獲れた野菜を隣接するレストランで提供するというアイデアなどが提案されました。

「課題解決型プログラム」では、企業と一緒に地域課題を解決するためのプロセスを勉強していきます。今年のテーマは本学のある浦和の街。フィールドワークを通じて研究を進め、その成果を「アトレ浦和」が発行する広報誌「U La La」で発表するという活動を行っています。これまで、地域の子育て支援制度や東京オリンピックを2年後に控えた現在の多言語への対応など、様々な課題に関する研究成果を記事にしてきました。

## 学生、地域、企業——それぞれのメリットとは？

学生が「課題解決型科目」を受講するメリットには、コミュニケーションや協働を通じて、「視野が広がり、社会や仕事、自分の将来の働き方への関心を高められること」が挙げられます。さらに課題を解決するプロセスの中で「生きる力」「人とかかわる力」「人に伝える力」を獲得することも見逃せないポイントです。実際、受講生の成長は目を見張るものがあり、自己理解、自己研鑽を実現するには理想的な内容だと言えるでしょう。



「課題解決型プログラム」の活動の成果を発表した「U La La」の1ページ

また企業・地域にもメリットがあるのは「課題解決型科目」の特徴です。学生が提案するアイデアが課題解決の糸口になるのはもちろん、若い学生の自由な発想に触れることで、組織を活性化することにもつながる可能性があるのです。このことはイノベーションをなかなか起こせないという企業が数多い中で、非常に意義のあることだと考えられます。

## Profile

石阪 督規 [いしざか とくのり]  
基盤教育研究センター教授

1996年 広島大学大学院社会科学部国際社会学専攻博士前期課程修了  
2000年 広島大学大学院社会科学部国際社会学専攻博士後期単位取得満期退学  
2000年 三重大学人文学部講師  
2002年 三重大学人文学部准教授  
2012年 東京未来大学モチベーション行動科学部准教授  
2015年 東京未来大学モチベーション行動科学部教授  
2016年より現職



# 留学生のサポートを通じて 経験できた真の異文化交流

今年3月から国際交流会館のレジデント・アシスタント（RA）を務める日本人学生に、RAになろうと思った理由や、なってよかったことについて話を聞きました。

## 生きた英語に毎日触れられる 貴重な環境

レジデント・アシスタント（RA）になろうと思った一番の理由は、英語力を伸ばしたかったからです。

大学院では、高速道路を対象にした研究に取り組み、将来は建設や土木と

いった業界で仕事がしたいと考えていました。そして、この業界も海外進出が顕著なので、自分が思い描いている未来を実現するためには英語によるコミュニケーションスキルが必要不可欠。英語力を向上させるために、生の英語を聞いたり、話したりする機会をたくさん持ちたいと思い、生活の中で留学生と接するRAになろうと考えたのです。

RAといっても、毎日決まった仕事がある訳ではありません。主な仕事は、日本に来たばかりの留学生が安心して学生生活を送るための生活援助。日常生活の手伝いのほか、月に1度開催する国際交流イベントの運営などを行います。そのような交流を通じて、留学生の友達も増えますし、交流会館の中は、基本的に英語で話すので、英語を使う機会はやはり多いです。その結果、確実に英語力は上がっています。昨年タイに留学した時に比べると、自分の言いたいことを自由に伝えられるようになりましたね。

サポートの内容は様々ですが、最近では、区役所に一緒に行って行政手続きの手伝いをしたり、体調の悪い留学生に付き添って病院行ったりしました。

## ここで得たスキルを活かして 日本の土木技術を世界に発信

初めは自分の英語力が伸びればよい

## 国際交流会館の レジデント・アシスタント

留学生たちの生活のサポートを行うために、埼玉大学の留学生寮「国際交流会館」で住み込みで活動するボランティアのこと。英語で基本的なコミュニケーションが取れる埼玉大学の学生で、在学予定期間が1年以上あれば、誰でも応募することができます。

と始めて始めたRAでしたが、色々な国の留学生と交流することで視野が広がったのは収穫の1つだと考えています。それまでは、固定概念にとらわれていたところがあったのは否めませんが、国民性や文化が異なる留学生のことをより深く知ることで、視野が広がりました。

大学院修了後は、仕事や論文発表などを通じて、日本の土木の技術を発展途上国の技術者に伝えたいと考えています。そのためには研究内容を英語で説明できるだけでは不十分。きちんと相手の背景を理解して、適切なコミュニケーションをとるためのスキルも必要ですが、RAを経験したおかげでそのようなスキルも身につきました。

RAと留学生は、お互いの生活の場で交流するので、本当に距離が近く、本音で話せます。また、世界各国から留学生が集まっているので、幅広く密度が濃い異文化交流が経験できるのも特徴です。将来、グローバルで活躍したい人は、RAになって損はないと思います。初めは英語で基礎的なコミュニケーションが取れば大丈夫。それほどハードルは高くありません。それよりも熱意や留学生の助けになりたいという気持ちの方が大切です。家賃もこの辺りの相場に比べると安価だし、良いことづくめだと思いますよ。

大学院理工学研究科環境システム工学専攻  
環境社会基盤国際コース博士前期課程2年生

鈴木 優佑さん

さいたま市立浦和高等学校出身

交流会館  
INTERNATIONAL HOUSE  
Building





サークル代表  
**渋谷 和樹さん**  
 KAZUKI SHIBUYA



工学部  
 応用化学科3年  
 茨城県立下妻第一高等学校出身

## 太鼓と笛が奏でる 日本伝統のリズムで踊ろう！

# 音楽研究会のび 民踊御囃子班

日本のお祭りには欠かせない御囃子や踊り——。シンプルながら奥深いそのリズムや動きは、自然と私たちの気持ちを高揚させてくれます。鑑賞するだけではなく、演奏や踊りを行えば、そんな伝統芸能の神髄を味わえるでしょう。

### 民踊と御囃子を通じて 日本文化を再発見！

「音楽研究会のび」には、楽器班と民踊御囃子班という2つの班があります。楽器班はロックバンドなど、軽音楽系の活動を行っていますが、私たち民踊御囃子班は日本各地に伝わる民踊を踊り、御囃子を演奏する活動を行っています。

現在のレパートリーは、中野七頭舞や秩父屋台囃子など、9演目ほど。演奏がメインで太鼓を叩く姿を見てもらうものと御囃子をバックに踊りも見てもらうものがあり、メンバーは和太鼓、笛、鉦などの楽器の演奏はもちろん、踊りも担当します。

私がこのサークルに入ったのは、新入生歓迎会で聞いた先輩たちの演奏のきっかけに感動したから——。体の芯まで震わすような迫力のある和太鼓の音にすっかり魅了され、自分もやりたいと思ったのです。

例えば和太鼓は同じ楽器、同じバチを使っても叩く人によって出る音が異なります。演奏を行う際には、そのよ



### サークルDATA

部員：男子1名、  
 女子4名  
 活動場所：課外活動棟

うな演奏者の個性を生かしながらも、全体のバランスを崩さないことを心がけています。

また踊りは、タイミングだけでなく、目線や足を上げる高さなど、皆の動きを合わせることに肝心。写真を撮られた時にどんな瞬間も様になっている——そんな踊りが理想です。

色々なイベントやお祭りで踊ることが多いですが、観客の方から掛け声をかけてもらうことがあります。演目の中には、観客の方と一緒に踊るものもありますが、そんな時の盛り上がりや一体感は言葉では言い表せないほど、素晴らしいものです。

毎年3月には、秩父の「山田の春祭り」

に参加し、地元の方と一緒に太鼓を叩かせていただきますが、普通は地元の方しか経験できないお祭りに参加する醍醐味が味わえる貴重な機会です。

陽が落ちて周りが薄暗くなり、提灯の光が浮かび上がる幻想的な雰囲気の中で、自分が奏でるリズムが周りに響き渡ります。そんな最高の瞬間と一緒に味わってみませんか？

### 年間スケジュール

- 4月 新入生歓迎ライブ
  - 6月 新人ライブ
  - 8月 秩父合宿(夏祭りに参加)
  - 11月 むつめ祭
  - 12月 定期演奏会
  - 3月 秩父山田の春祭りに参加、他大学との交流会
- ※その他不定期に様々なイベントに参加

# 卒業生紹介

活躍する卒業生からのメッセージ



「理系が恋に落ちたので証明してみた。」の主人公、雪村心夜と氷室菖蒲  
©山本アリフレッド/COMICメテオ

幼い頃から憧れていた  
漫画家になれたのも  
ヒット作を生み出したのも  
学生時代の経験のおかげ？

漫画家

## 山本アリフレッドさん

Arifred Yamamoto

何でも題材になるのが  
漫画のいいところ？

作品を制作する上で心掛けているのは分かりやすさです。

特に現在連載中の「理系が恋に落ちたので証明してみた。」(埼玉大学をモチーフにした架空の大学、彩玉大学の理工学研究室を舞台にしたラブコメディ)は、理系の学術的な分野を扱っているのですが、漫画の構成やセリフなど、誰が読んでも分かりやすいように工夫しています。

また、物語のリアリティにもこだわっていますが、その点は工学部、理工学研究科で過ごした学生時代の経験が役に立っていますね。さらに、劇中に出てくる理論や内容について、研究室時代の先生に相談に乗っていただいていますし、学生時代の仲間がモデルになっているキャラクターもいます。

漫画家という仕事の魅力は、自分に

しか作れないものを作れるということです。だから漫画はどんなことでもネタにできます。どんな酷い目にあっても「よし漫画にしてやろう!」とやり過ごせます(笑)。

読者の方にも、嫌なことがあった時に、そんな体験が描かれた作品を読んで笑ってもらえればいいなと思います。

全ての経験は  
無駄にはならないはず

大学在学中は、漫画や小説などを創作するサークルの「ライトフィクションクラブ」で漫画の制作に勤しんでいました。このサークルには才能に溢れている人が多く、色々な刺激を受けましたし、漫画家としての私の師匠もこのサークルの出身です。漫画家になれたのはこのサークルのおかげかもしれません。

埼玉大学の魅力は、研究でもサーク



現在、単行本は4巻まで発刊されており、累計60万部発行のヒット作に

ル活動でも、やりたいことが何でもできる環境が整っているところ。ですので学生の方は、失敗を恐れず、興味のあることなら何でもチャレンジしてほしいですね。一見漫画とは関係がなさそうな工学部での経験が作品に生かされているように、人生にとって無駄な経験は1つも無いのですから——。

### Profile

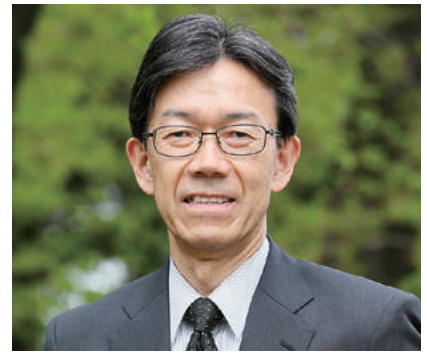
埼玉大学工学部卒業  
埼玉大学大学院理工学研究科博士前期課程修了  
「カオス・ウィザードと悪魔のしもべ」で漫画家デビュー  
2016年からCOMICメテオにて「理系が恋に落ちたので証明してみた。」連載中

## 緑豊かな埼玉大学キャンパス - 創立 70 年の歴史 -



2019年、埼玉大学は創立70周年を迎えます。四季折々に美しい姿を見せてくれる埼玉大学キャンパス。この緑豊かなキャンパスも70年の歴史の賜物です。写真とともにその移り変わりを見て、時の流れ「時間軸」の重みを実感しましょう。私たちも、埼玉大学も、これまでの歩みを未来へとつなげるために。

埼玉大学長 山口宏樹



### 埼玉大学の創立と現況

1949年、埼玉大学は開学しました。旧制浦和高校を母体とする文理学部と埼玉師範学校・埼玉青年師範学校を母体とする教育学部の2学部でのスタートです。爾来70年の歴史を辿り、いくつもの節点や分岐点が繋がった埼玉大学の時間軸は、紆余曲折に今に至ります。教養、経済、教育、理、工の5学部と、それに繋がる大学院人文社会科学、教育学、理工学の3研究科から成り、学生・教職員9,500人の大所帯が現況です。

### 埼玉大学キャンパスの移り変わり

埼玉大学の全てが集まる今の久久保キャンパスには50年前に移転。1970年の年明けからこの地で講義が始まっています。右上の航空写真に示すとおり、荒川の河川敷に位置するキャンパスは建設中のものも含め建物が並ぶだけの殺風景なもので、緑は入口を入れて右にある僅かな原生林だけでした。

私は1971年に当時の理工学部建設基礎工学科に入学し、大学生としての4年間を埼玉大学で過ごしました。入学当時の校内風景は下左の写真のとおりで、北浦和駅からのバスが発着するなど、広々とした構内で、原生林が目立ちます。



1971年の埼玉大学キャンパス中央風景と図書館(1999年撮影)



航空写真から見た埼玉大学キャンパスの移り変わり

それが2017年には四季折々に美しく緑豊かなキャンパスになっています(下右の写真)。これは私の恩師であり、第5代学長の岡本舜三先生が、40年前に植えた木々が育ってできたものです。上に示した航空写真の1980年と2011年を比べれば、キャンパス全体で緑が大きく増えていることがわかります。

### 時間軸に沿った歩みと成長

埼玉大学キャンパスの移り変わりと木々の成長は、時の流れという時間軸の重みと、初動という時間軸原点の大切さを教えてくれます。皆さんは今、大学生になることを思い描いているかも知れません。ぜひ埼大生になって初動を大切に、皆さん一人ひとりの新たな時間軸に沿って歩みを進め、大きく成長されることを心から願っています。

### 大学での師との出会いは原点・分岐点

私のキャリアの原点は埼大生時代の恩師との出会いです。先の岡本先生には構造物の振動現象の不思議さに目覚めさせて頂きました。もう一人は秋山成興先生で、力学の本質を教えて頂くとともに、「卒業生が大学に戻って埼玉大学のために尽くすべき」と諭され、1982年に教員として埼大に戻りました。そして第8代学長の堀川清司先生からは学長補佐として多くを学びました。今思えば、そこが私の時間軸の大きな分岐点です。

私の個人的エピソードのように、埼玉大学には多様な師や学問と出会う環境があり、時間軸上、脈々と続いています。埼玉大学はこれからもその環境を維持して歴史をつなぎ、輝き続けます。



2017年の埼玉大学キャンパス中央風景とリニューアルした図書館

# Information

## 平成31年度入学者選抜よりインターネット出願方式に全面移行します (学部1年次入学試験のみ)

詳細は入試課ホームページをご覧ください。

スマートフォン・携帯電話から



ホームページから

<https://e-apply.jp/e/saitama-n/>

### ネット出願のメリット



紙の願書の  
取り寄せ不要



手書きの手間が  
省ける



24時間申込み可能

## 各入試の学生募集要項は埼玉大学ホームページ上で公表します <http://www.saitama-u.ac.jp/entrance/requirements/index.html>



埼玉大学マスコットキャラクター  
メリンちゃん

## 資料請求 [大学案内・各学部案内]

### 1. テレメールで請求する場合

ホームページから [https://telemail.jp/\\_pcsite/?des=033761&gsn=0337655](https://telemail.jp/_pcsite/?des=033761&gsn=0337655)

テレメールの資料請求方法などについてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (受付9:30~18:00)

スマートフォン・携帯電話から



右のバーコードを読み取って  
アクセスしてください。

### 2. 大学情報センター「モバっちょ」で請求する場合

スマートフォン・携帯電話から

※「モバっちょ」では、資料請求料金を携帯電話の通話料金と一緒に支払えます。  
※携帯電話の機種、携帯電話会社との契約状況により利用できない場合があります。  
その場合、コンビニ後払いを選択してください。



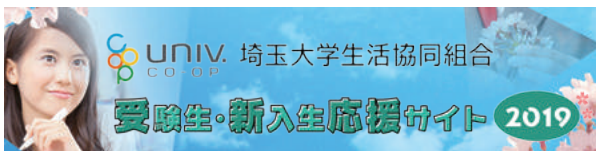
ホームページから <http://djc-mb.jp/saitama-u/>

「モバっちょ」の資料請求方法などについてのお問い合わせ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター  
TEL 050-3540-5005 (平日9:00~17:00)

### 3. 埼玉大学に来学して受け取る場合

埼玉大学学務部入試課(教育機構棟1階)で受け取ることができます。  
月曜~金曜(祝日等を除く)9:00~17:00  
※守衛所(埼玉大学正門わき)では、上記の曜日・時間以外にもお渡しできます。



埼玉大学生協同組合では、受験宿泊プランの紹介など受験段階でのサポートや、新入生の新生活準備といった様々なバックアップを行っています。詳しくは「受験生・新入生応援サイト」(<https://www.univcoop.jp/saitama-u/start/>)をご覧ください。

[受験宿泊先の紹介](#) [住まい探し](#) [新入生イベント](#) [学生生活](#)



### 70周年キャッチフレーズ&ロゴマークについて

#### ■キャッチフレーズ

2019年に埼玉大学創立70周年(1949年創立)を迎えるにあたり、埼玉大学の70年を象徴するキャッチフレーズを学生・教職員より募集し、選考の結果、教養学部4年上村真由さんの「つなげよう未来へ」に決定しました(2017年11月)。上村さんは、「あらゆる立場の人同士をつなぐ「架け橋」であることが埼玉大学の魅力」との思いを込めてくれました。

#### ■ロゴマーク

キャッチフレーズ決定後、そのイメージに合わせ、教育学部美術分野の高須賀昌志教授<sup>※</sup>に製作いただきました。

#### 高須賀先生のコメント

70の「0」を3重にして、時の重なりを表現しています。埼玉大学シンボルマークと同じ「横はね」のラインを連なるように一体感のあるデザインにしました。70周年の横はねを上下反転させることで「未来への架け橋」を暗示し、単体使用でもメッセージを具現しています。

※高須賀教授の研究室は本誌「ラボ探訪」P.7に掲載されています！



### 埼玉大学入試 LINE @

LINE @アカウントを友だち登録して下さった方に、入試情報、入試関連イベントのお知らせなど受験生みなさんに役立つ情報をお届けします。



### SAIDAI CONCIERGE vol.28

■発行日 2018年11月  
■企画・編集発行 埼玉大学広報渉外室  
■問い合わせ先 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255  
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057  
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp

